

テーマ かえる の えほん

しよめい	ちよしゃ	しゅつぱんしゃ	せいきゆうきごう	ないよう
まだかな	まつおか たつひで／さく・え	ポプラ社	Eホン/M	ぼくはかえる。きょうはみずべでまちあわせ。ぼったさんがぴょーんととんだ。あおはだとんぼさんもとんでいる。あっ、うしがえるさんが、あおはだとんぼさんをばくっとたべた。みずべに、おいかわさんやかわせみさんもいるけど、ぼくのともだちはまだかな。
かえるのあまがさ	与田 準一／著 那須 良輔／画	童心社	SIホン	かえるがおみせをだしました。なにのおみせかという、あまがさのおみせです。「かえるがあまがさなんか さすもんか」と、たにしたちがうわさをしています。かえるはあまがさをさすのでしょうか。リズムのいいぶんしょうでかたられるえほんです。
かえるをのんだととさん	日野 十成／著 斎藤 隆夫／画	福音館書店	Eホン/S	むかし、あるところに、ととさんがいました。あるひ、ととさんのはらにむしがはいて、とてもいなくなりました。そこで、ととさんはかえるをのみました。かえるはむしをたべてくれたのですが、そのあと、はらのなかをあるきまわります。こまったととさんは、つぎにへびをのみました。
ちいさいモモちゃん 3 あめこんこん	松谷 みよ子／文 中谷 千代子／絵	講談社	SIホン	ももちゃんは、まっかなかさとながぐつをかってもらいました。ももちゃんはおうれしくて、あめのひがまちきれません。だから、あめふりごっこをはじめました。すると、がまがえるとかたつむりが「いれて」といってきました。ほかにも「いれて」というこえがきこえてきました。
がまの油	長谷川 義史／絵 齋藤 孝／文	ぼるぷ出版	Eホン/H	「さあさ、お立あい、ご用とおいそぎのないかたは、ゆっくりと聞いておいで」。これは物売りの口上で、今でいう商品の実演販売。前足の指が4本、後ろ足が6本の四六のがまの脂汗を煮つめたがまの油。切り傷やはれものにぬるとすぐなおる。ほんとうになおるのかな？
かえるのどびん	野村 たかあき／作・絵	教育画劇	Eホン/I	おいけがむらのどびんは、およぎのきょうそうで、いつもまけてばかりでした。あるひ、とおくはなれたやなぎがむらまでたびをして、はるのまつりにさんかします。ここでもやっばり、いちばんにはなれませんでした。ところが、わかいかえるが、どびんはいっとうしようだといいました。